

分野： (3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査
② 乳幼児ぜん息の一次予防に向けた適切な乳幼児健診のあり方の検討

(3)-②

申請課題名：乳幼児健診から探索するぜん息発症の関連因子の同定及び予防への応用

調査研究代表者氏名：山本 貴和子

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	0人	0人	3人	3人	0人	2.50
(2) 研究成果目標の達成度	0人	0人	3人	3人	0人	2.50
(3) 研究計画の妥当性	0人	0人	3人	3人	0人	2.50
(4) 研究内容の独自性	0人	0人	4人	2人	0人	2.67
(5) 社会・経済に対する貢献度	0人	0人	1人	5人	0人	2.17
個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均						2.46
(6) 総合評価(第2評価)	0人	0人	3人	3人	0人	2.50
全体評価(第1評価):(1)~(6)の平均						2.47

2 記述評価

- ・新型コロナのパンデミックの影響をもろに被った研究プロトコルであったこともあり、捲土重来を期待したい。
- ・保湿剤塗布2回のほうが1回より喘息発症が多かったということがわかったというだけでなく、それが何故なのかが少しでも推測され得るような調査研究を計画実施すべきである。
- ・乳幼児健診から探索する、ぜん息発症の関連因子の同定と予防への応用である。
- ・当初からの目的と結果、成果は必ずしも一致しているかどうか。レビューが多い。
- ・健診事業等へ成果を展開する際には、対象集団の特性や得られた解析結果の限界に十分配慮して進めて欲しい。